



山の手だより

No. 11

【理念】 「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」

■発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
■発行責任者 / 事務部長 池上 和孝

札幌市西区山の手 5 条 7 丁目 1-1 電話 (011)611-8111 / FAX.(011)611-5820
ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>



北海道医療センター

看護学校

11
号
目
次

■就任のご挨拶	事務部長 池上 和孝 ……2
	附属札幌看護学校 副学校長 鈴木 佳子 ……3
	脊椎脊髄センター長 伊東 学 ……3
■診療科の紹介	形成外科の新設紹介 形成外科 香山 武蔵 ……4
	インフォメーション……………先生たちのプロフィール ……4
	心臓血管外科紹介 心臓血管外科 石橋 義光 ……5
	リハビリ科紹介 リハビリ科 高橋 士郎 ……5
	臨床検査科の紹介 臨床検査技師長 印部 俊雄 ……6
	インフォメーション……………看護師募集のお知らせ ……6
	栄養管理室の紹介 栄養管理室 松本 信子 ……7
	インフォメーション……………診療科のご案内 ……7
■ドクターヘリを受け入れて	救急科 吉田真一郎 ……8
■北海道医療センター「神経・筋疾患」研修会を終えて	神経内科 藤木 直人 ……9
■ロビーコンサート報告 ……10	
	インフォメーション……………ボランティアコンサート募集のお知らせ ……10
■14期生入学式	教育主事 佐藤くみ子 ……11
■編集後記 ……11	
■外来担当医師一覧 ……12	

就任のご挨拶

これから
頑張ります!



Greeting

事務部長 池上 和孝

皆さん、こんにちは。平成26年4月1日付で事務部長に就きました池上でございます。ファイターズの大ファンです。出身は当院の前身の西札幌病院で、直前は厚生労働省の地方行政機関から転勤してまいりました。当地での勤務は7年ぶりの3度目になりますが、7年前（統合前）を思い起こせば、建物、設備は老朽化の極みで、ずいぶん患者さんに負担をかけていました。暑いからといって病室で扇風機を回すとブレーカーが落ちる、そんな劣悪な環境でしたから、現在の病院内を歩いて回ると感慨深いものがあります。

さて、平成26年度の当院は、いよいよ「リスタートプラン（経営安定化計画）」の最終年度を迎えます。しかし、経営安定化といっても、目的は利益を追求することではありません。

国立病院機構病院の一員として当院は、経営安定化によって獲得した利益を医療資源に投資して、地域の皆さんに良質な医療を継続的に提供して行く責務を有しています。また、当院は、国立と名前は付いていますが、国からはお金の面の恩恵は受けていません。当たり前ですが、新病院の建物や医療機器の整備で借り入れた資金を返して行きます。したがって、我々の使命を果たすための経営安定化、目的はそこにありますので、リスタートプランの達成に向けて最大限の努力をしていきます。

加えて、当院は、3次救命救急の超急性期からセーフティネット系の政策医療（神経難病、精神科身体合併診療、小児慢性疾患診療、結核医療）、災害医療の拠点としての機能を担っています。一般の医療機関と比較すると、運営には非常に困難を伴いますが、前述のとおり我々には果たすべき使命があります。事務部門の責任者として、張り切って仕事を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Greeting

北海道医療センター附属札幌看護学校 副学校長 鈴木 佳子

三角山が見える懐かしい北海道医療センターへ4年ぶりに帰ってきました。3度目の勤務となります。前回の異動は、北海道医療センターが新しい建物になって診療開始直後でした。そして、今回の異動もあきた病院の新棟への引っ越し直後でした。

看護教育は、大学化が進む一方で専門学校も学生の確保が確実であることから看護師養成課程を持つところが多くなってきています。当校も札幌市内の国立病院附属の看護学校が統合し、1学年80名の学校となって12年目を迎えるようとしています。学生への教育の充実はもちろんですが、それを担う学校職員が働きやすい環境を作るよう努めたいと思います。

当校は、建物が立派で幹線道路沿いにあるため、皆さんに知っていただきやすい環境にあります。しかし、一番自慢したいことは、教員の質の高さです。ベテランの教員が揃っていて、学生へのより良い教育を目指して学習環境を整え、教育内容や方法を検討しています。

今後も更に充実した教育を目指し、一層努力をしていきたいと考えておりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

Greeting

脊椎脊髄センター長 伊東 学

私は、平成26年4月より本病院に新しく開設された脊椎脊髄病センターの責任者として赴任いたしました。整形外科の中でも脊椎脊髄疾患に特化して医療を行う部門として、新年度から開設されました。

私は、昭和63年に北大医学部を卒業、脊椎脊髄外科の医療に興味を持ち、その後同整形外科教室・大学院を経て、脊椎脊髄外科の専門医、指導医として北海道大学病院に19年間勤務いたしました。その間、多くの困難な脊椎脊髄疾患の治療に携わってまいりました。

本脊椎脊髄病センターでは、頸椎から骨盤までのあらゆる病態の治療を行ってまいりますが、特に子供から大人までの脊柱変形、高齢者の脊椎脊髄疾患、脊椎の感染症や腫瘍性疾患などの一般医療機関では治療が困難な疾患の治療も積極的に行いたいと思っております。特に脊椎感染症に対しては、北大在職中に開発した内視鏡を用いた低侵襲手術も継続して行いたいと思っております。

赴任して早々、多くの患者様のご紹介をいただいております。心から御礼を申し上げます。私と一緒に赴任し、脊椎脊髄外科の指導医を目指す山田勝久先生、ならびに整形外科の先生方と力を合わせながら、札幌西地区のみならず北海道地区の脊椎脊髄疾患の中核病院として発展させることができるよう努力してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。



診療科の紹介!

\NEW/

形成外科の新設紹介

形成外科 香山 武蔵



皆様、はじめまして、北海道医療センター形成外科の香山武蔵と申します。これまで当院には、形成外科という診療科が無かった為、当科が何をやっている診療科なのかよく分からない、という方も多くいらっしゃると思います。ですので、この場を借りて当科の簡単な紹介をさせて頂きたいと思います。

当科の対象疾患は下記のようなものが挙げられます。当科では、これら疾患に対する、手術を中心とした治療、軟膏等外用剤による治療を執り行っています。

対象疾患

新鮮外傷（擦り傷・切り傷等）、新鮮熱傷、顔面骨骨折、唇裂・口蓋裂、その他顔、手、足の先天異常、母斑、血管腫、良性腫瘍（ほくろ・あざ・できもの等）、悪性腫瘍の摘出およびそれに関する再建、瘢痕（傷跡）およびそれによる瘢痕拘縮（ひきつれ）、ケロイド、褥瘡（床ずれ）、難治性潰瘍（治りにくい掘れた傷）、眼瞼下垂（まぶたの垂れ下がり）、顔面神経麻痺後遺症、陥入爪、腋臭症 等

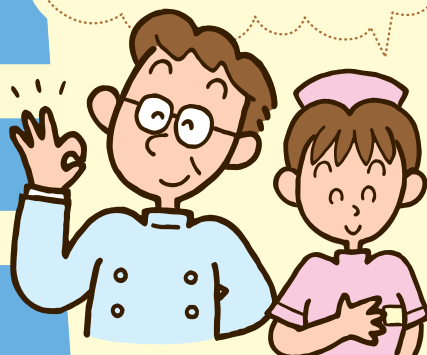
形成外科とは、上記疾患の様に、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院では上記疾患を全般的に診療しますが、より専門性のある疾患に関しては、札幌医科大学附属病院形成外科と連携して治療して参ります。

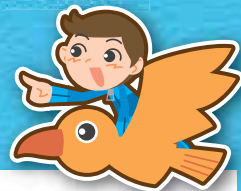
形成外科で治療を受けた方々が、笑顔で再び社会生活に復帰してゆく姿を見ることが、形成外科を専門とするわたしたちの最高の喜びです。



万全の医療体制で、地域の皆様
に安心をお届けます



北海道医療センターには全 28 もの診療科があります。



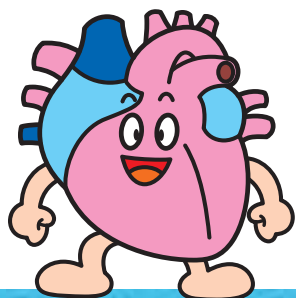
心臓血管外科紹介

心臓血管外科 石橋 義光

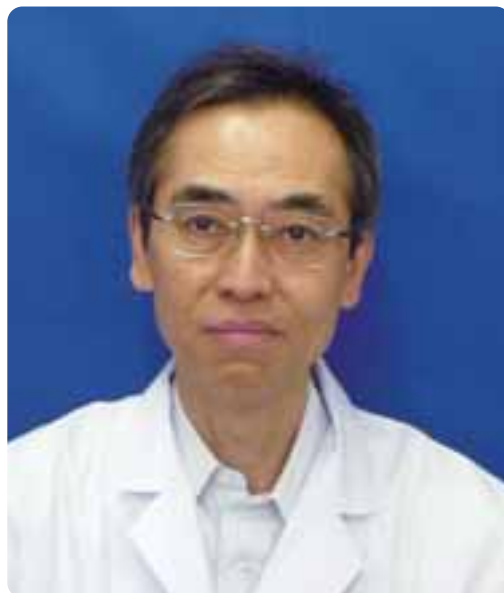
北海道医療センター開設の頃に一度当科を紹介いたしました。それから 5 年が経過し現在、心臓血管外科の常勤医師は 1 名増えて 5 名（心臓血管外科専門医 3 名）となり、人工心肺などを扱う臨床工学士も 2 名増えて 7 名になりました。

2013 年の年間手術数は 208 例で、心臓や胸部大動脈の手術は 66 例（人工心肺 52 例）、腹部大動脈 28 例、末梢動脈は 64 例、下肢静脈瘤 21 例、その他 29 例でした。最近では腹部大動脈瘤や胸部大動脈瘤にたいして手術ではなくカテーテルによる治療が増加してきており腹部大動脈瘤 28 例中 20 例、胸部大動脈瘤 31 例中 9 例は血管内治療で、死亡や合併症もなく結果は良好でした。

手術数は毎年少しずつ増加してきておりますが、目標は心臓 胸部大動脈の手術で 100 例以上でありまだまだ患者受け入れに余裕がある状態です。



2013 年の 12 月に術後患者や重症患者を治療するための一般 ICU 4 床が完成し手術室が 1 室増設されました。循環器救急患者の受け入れはさらに良好となりました。総合病院であるため 28 科の専門医が診療を行っており様々な合併症を持つ患者さんや重症の患者さんも安心して治療を受けられる体制はさらに充実してきております。



リハビリ科紹介

リハビリ科 高橋 士郎

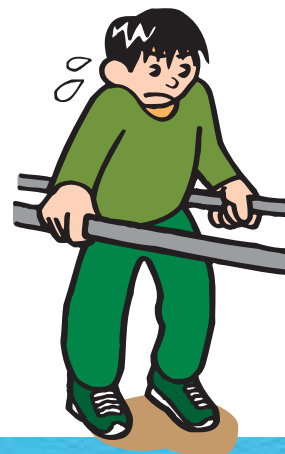


皆様日頃より北海道医療センターをご支援頂き誠にありがとうございます。当科は国立療養所時代に開設され長い歴史がある診療科で私で 3 代目の医長になります。

当初スタッフ 4 名で養護学校が同じ敷地内に併設されていたため小児慢性疾患、運動器疾患また廃用症候群等を長期に診療させて頂きました。その後時代の流れで国立札幌南病院との統廃合、北海道がんセンターの一部機能移行で現在の北海道医療センターに至っています。

現在当院は 28 診療科からなり、急性期病院として主として骨関節疾患、脳血管障害、小児慢性疾患、糖尿病教育入院、呼吸器疾患また ICU 等の超急性期から神経難病などの慢性進行疾患患者様のリハビリを幅広く行っています。そして各部門と連携し在宅・社会復帰を目指し、患者様の将来を見据えた治療を心かけることを信念としています。現在スタッフ 15 名ですがマンパワー不足から入院患者様の治療に専念させていただいております。

地域の皆様と外来で接する機会が少ない診療科ですが、ご理解の上宜しくお願い致します。



臨床検査科の紹介

臨床検査技師長 印部 俊雄



当院は、救命救急といった急性期を診療する科から精神科、神経内科といった慢性期を診療する科、結核の専門病床など幅広い診療を提供する病院です。ほかの病院にはない幅広い疾患が対象となるため、臨床検査の範囲も広く深くなければなりません。

現在、生化学分析や血液の分析、尿の分析に11人、心電図や脳波、超音波検査に7名、細菌検査に2名、輸血検査に2名、病理検査に2名、採血室に3名の総勢27名の臨床検査技師が臨床検査に携わっております。

血液検査と輸血検査は24時間365日稼働し救命救急や患者様の急変に備えております。また、外来診察時に検査成績を提供するために外来の患者様の採血のほとんどを外来の採血室で行っており毎

月3,000人以上の採血を行っております。混雑する時には待ち時間が長くなることもあり、ご迷惑をおかけしますがご容赦ください。

そして検査データを提供するだけでなく、糖尿病教室の講師、感染管理、褥瘡（床ずれ）管理、輸血管理、医療安全管理委員会へ参加し検査に関わる問題に対処しております。

医学は日々発展し臨床検査もそれに対応して広範囲に専門化しております。

今後とも日々研鑽し、より確実に正確な検査成績の提供に努めてまいります。



看護師募集中

あなたのキャリアアップを
全力で支援します!!

連絡先

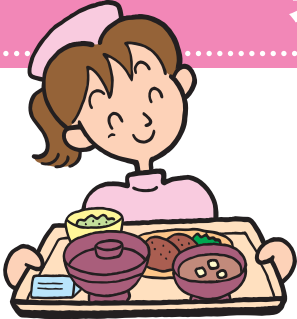
TEL:011-611-8111
(内線 6150)



診療科の紹介!

栄養管理室の紹介

栄養管理室 松本 信子



栄養管理室では、笑顔を絶やさず、健康に気をつけ元気に過ごすことをモットーに、患者様に安全でおいしく喜んで食べてもらえる食事を提供できるよう日々努力しています。

それは、私たちが健康で元気でなければ、おいしい食事を作ることも、安全な食事を提供することもできなくなることがあるからです。

体調が悪いのに無理して食事をつくると、食中毒に繋がる可能性もあるため日々の体調管理に気を付け、温度管理の徹底と無理のない調理作業時間となるよう献立内容にも配慮しています。

そしてなんといっても患者様が1日でも早くお元気になられることを願い愛情を込めて作ることを心がけています。

患者様から「おいしかったよ」「食事が食べられるようになったよ」とお手紙を頂くと、栄養管理室全員で喜び、患者様から逆に元気をもらい、もっとおいしい食事を提供できるよう努力しようと励みにもなっています。

私たちは、これからも食を通して食の大切さや、病気の予防や健康に元気に過ごしていただけるよう情報を発信し、管理栄養士3名調理師9名が力と知恵を絞り、協力し合い、患者様の笑顔に繋がる栄養管理ができるよう努力していきたいと思います。

行事食(子供の日・クリスマスなど) すべて手作りしています☆



糖尿病用です。

インフォメーション

診療科のご案内

【全28科】

 内科	 糖尿病・脂質代謝内科	 腎臓内科	 心療内科		
 精神科	 神経内科	 呼吸器内科	 消化器内科	 循環器内科	 アレルギー科
 リウマチ科	 小児科	 外科	 整形外科	 脳神経外科	 呼吸器外科
 心臓血管外科	 小児外科	 皮膚科	 形成外科	 泌尿器科	 婦人科
 眼科	 耳鼻咽喉科	 リハビリテーション科	 放射線科	 麻酔科	 救急科



『ドクターヘリを受け入れて』

救急科 吉田 真一郎

当院でのドクターヘリ事業は昨年より準備が進められ、10月にヘリポート建設、12月にはヘリ着陸を含めたシミュレーションが行われました。今年3月、当院では初めてとなる傷病者を受け入れたので、簡単ですがご報告いたします。

救命ホットラインに収容依頼が入電したのは午前9時ごろでした。患者さんは意識障害で反応なしとのことで、集中治療可能な部門への入院は必須です。しかし一報が入った時点では、まだ入院患者さんの病状や空床状況を全て把握しきれておらず、当科スタッフや病棟スタッフにフォローをお願いして、受け入れ可能と判断しました。

陸送で2時間以上を要する現場から来院されました。ヘリポートでの申し送り・初療室への移動・入院まで、大きく滞ることはありませんでしたが、物品・動線など気になる点がいくつかありました。患者さんはその後意識を回復され、地元近くの基幹病院へ転院されました。

ヘリ基地病院以外で、申し送られる立場、という経験は私も初めてで、受け入れ側は自分や救命看護師だけで済むものではないことを思い知らされ、関わってくださった多くの皆さまに非常に感謝しております。さらには、病院職員だけでなく近隣の方々にもご協力いただいていることを認識し、救命に結びつけられたらと思います。



北海道医療センター 「神経・筋疾患」研修会を終えて

神経内科 藤木 直人

2月15日の午後、TKP札幌カンファレンスセンターにおいて北海道医療センター「神経・筋疾患」研修会が開催されました。今回は「レスパイト入院～在宅療養を支えるために～」というテーマが多くの方から関心を持たれたようで、例年よりも多い112名（院外95名、当院職員17名）に参加して戴きました。参加者の内訳は、医師14名、看護師54名、保健師17名、MSW6名、その他21名でした。

前座として、私から「当院におけるレスパイト入院の現状」を報告したあとで、福岡で神経難病の総合的ケアを実践されている村上華林堂病院の菊池仁志理事長から「在宅神経難病患者の総合支援体制について」という特別講演をして戴きました。初診からターミナルまで一貫した方針で在宅療養とレスパイト入院とを繰り返す総合的ケアシステムのお話を伺い、大変感銘を受けました。人工呼吸器を装着した患者が同時に何十人もレスパイト入院しているような光景は想像を絶するものですが、「レスパイトだ

けやろうとしてもできない。訪問診療を含めて全部やらないと絶対成功しない。」「在宅医療をしっかりやれば、患者さんにとって在宅でも入院でも同じ。」というような言葉には大変インパクトがありました。またレスパイト入院をする患者さんには、コンピューターによる意思伝達方法を必ず覚えてもらい、コールをしてから文字を打つのではなく、文章を作り終わってからナースコールを押すように協力してもらっている、という「目からうろこ」のようなお話にも驚きました。

村上華林堂病院のような試みを当院で実践するにはかなり高いハードルがありますが、なんらかの形で日常臨床に生かしたい、と考えながら会場を後にしました。



ロビーコンサート報告



1月
30日

マリンバ・ピアノによるロビーコンサート 『冬のおとずれ』

マリンバ演奏／さっぽろマリンバクラブ
ピアノ演奏／橘田 由希乃、豊澤 朋子
小林 奏、長田 道子

曲目
アイネ・クライネ・ナハトムジーク / 白い恋人たち / 虹と雪のバラード / となりのトトロ / 日本の歌 / 冬のメドレー 他



2月
19日

フィンランドの民族楽器 『カンテレ演奏会』

演奏者／佐藤 美津子
ホッカネン・弘美
八島 紫帆

曲目
グリーンズリース、時計台の鐘、フィンランディア 他



3月
29日

札幌市医師会混声合唱団 ミニコンサート 『～春を迎える～』

合唱団代表／高下 泰三
指揮／景浦 暁
ピアノ伴奏／近藤 裕美
歌の紹介／紺野 久美子

曲目
春の小川、夏の思い出、夕焼け小焼け、手のひらを太陽に 他8曲

インフォメーション

当院では年間をとおしてボランティア
コンサートを募集しております。



連絡先

TEL:011-611-8111
(内線 5130)



北海道の長い春もやっと終わりを告げた4月10日に14期生の入学生達は来賓、病院関係者、保護者の皆様に見守られながら、入学式を迎えました。菊地学校長先生からは入学生に350人からの受験者より選抜され、且つ我が校は国立病院附属看護学校の中でレベルの高い学校なのだからプライドを持って勉学に励むようにと、また本校の目指すところのProfessionalな看護師についてのProfessionalの意味する3つの柱である専門性、公益性、道徳性について話されました。次に田中看護部長より看護部の薦める行動の3つのC即ちチャンス、チャレンジ、チェンジの実践を紹介され是非とも実践していくことをと、お二人より心強いエールを頂きました。

新入生代表の川本愛さんより仲間と共に切磋琢磨して看護師を目指していきたいと誓いの言葉が聞かれました。

今日のこの日の気持ちを忘れずにこれからの3年間の成長と皆様の看護師になるという目標を達成されますことを看護学校職員一同心より願います。

『14期生入学式』

教育主事 佐藤 くみ子

編集後記

今年度の当院は広報にも力を入れていきます。

当院のことを言うときに以前は、「山の手国立西病院」が一番馴染みがあったようですが、今はどう呼ばれているのでしょうか。

先日、一般の方から「医療センターって何かの研究機関ですか?」という意見がありました。私の感覚では、「〇〇医療センター」という響きは、病院としての一つのステータスとと思っていましたが、当院を知っていただく努力はまだまだ足りないようです。

当院は、診療科が28もあり、それぞれのプロフェッショナルが揃っています。そして、たくさんの機能を持ちたくさんの使命を担っています。全国的にもこんな病院は非常に稀です。ぜひとも、地域の皆さんに知っていただきたいと願っています。

今後の北海道医療センターにどうぞご期待ください。

外来担当医師一覧

平成26年5月2日現在

外来受付時間 午前 8:30~11:00 / 午後 1:00~3:00 (一部の科のみ)
 ※土・日・祝日は休診 ※内科の午後は完全予約制

診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考		
内科	リウマチ科 (膠原病)	市川	竹内	市川	竹内	市川	午後完全予約制	
	呼吸器内科	小倉	山本	中山	小倉	山本	午後完全予約制	
	呼吸器内科②	—	鎌田	網島	—	鎌田	午前診療のみ	
	糖尿病・脂質代謝内科	高野 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 高野	加藤(雅) 高野	初診は紹介のみ 担当医は交代制 午後完全予約制	
	消化器内科	午前	菅根(初診)	羽田(初診)	木村(初診)	武藤(修)(初診)	馬場(初診)	初診/再診
		午後(一般)	大原	木村	大原	木村	大原	完全予約制
		午後(専門)	—	小川(研議専門外来)	便秘・下痢・胸焼け外来	女性医師外来	—	午後完全予約制
	腎臓内科	午前	宮本(兼)(再診) 担当医(初診)	只野 担当医	山村 担当医	山村 担当医	中垣 担当医	月曜日の初診は完全予約制 担当医は交代制
		午後	—	—	齋藤(快)(再診)	山村(再診)	—	午後は完全予約制
	循環器内科	午前	担当医(初診)	寺西(初診)	佐藤(初診)	担当医(初診)	竹中(初診)	初診/再診
午後(予約)		本間	井上(仁)	寺西	小松	寺西	再診(予約制)	
午後(不整脈)		佐藤(不整脈) 担当医	金子	竹中	藤田	武藤(晴)	再診(予約制)	
神経内科	午前	武藤(晴)(SAS)	井上(仁)	寺西	武藤(晴)(SAS)	ペースメーカー外来	午後完全予約制 ※SAS=(睡眠時無呼吸症候群)の専門外来(予約制)	
	午後(一般)	藤野	金子	竹中	藤田	—	—	
	午後(専門)	難病相談外来	菊地(誠)(再診) 土井/宮崎 藤木 菊地 (セカンドオピニオン外来)	多発性硬化症専門外来	—	—	月曜日午後の難病相談外来は北海道難病医療ネットワークからの紹介患者様に限る 火曜日のセカンドオピニオン外来はパーキンソン病を対象とします。	
外科	外科	高橋(宏)	蔵谷	伊藤	植村	第4週:高橋(宏)	月曜午後 札幌市乳がん検診	
	呼吸器外科	高橋(宏)/乳がん検診	蔵谷	菊地(健)	—	第4週以外:坂本	火・木曜日午後は完全予約制	
	心臓血管外科	井上(瑠)	—	—	植村	第4週:高橋(宏)	第4金曜日はストーマ外来	
	整形外科	午前(一般)	新納(初診)	高橋(士)	新納	手・肘・肩外科専門外来 (第2・4週は休診)	高橋(士)(偶数週)	午前診療のみ
		午後(専門)	伊藤(初・再診)	—	伊藤(初・再診)	—	山田(初・再診)	紹介制 背椎・背髄症専門外来
	リハビリテーション科	高橋(士)(再診)	—	伊藤/山田	—	—	—	紹介制 背椎側弯症専門外来
	脳神経外科	午前	安喰	安田	宮本(倫)(予約制)	牛越	—	水曜日完全予約制(再診のみ)
午後		—	—	—	牛越(脳血管内治療外来)	—	水曜日午後は専門外来 [完全予約制、初診は紹介のみ]	
小児科 (小児腎臓病センター) (小児遺伝代謝センター)	午前(一般)	荒木	長岡	長尾/重富	荒木/重富	田中(藤)	—	
	午前(専門)	長尾(神経・成長発達)	荒木(腎臓)	長岡(腎臓、第1・4・5週) 荒木(腎臓、第2・3週)	田中(遺伝・代謝、遺伝カウンセリング、奇数週) 長岡(腎臓、偶数週)	長尾(アレルギー)	完全予約制	
	午後(紹介・予約制)	田中(藤)	重富	長岡	重富	長岡	紹介又は予約制	
	午後(専門)	長岡(腎臓)	田中(藤) (遺伝・代謝・遺伝カウンセリング)	若井(脳波・神経、第1・2・3週) 荒木(腎臓)	重富(小児保健)	荒木(腎臓)	完全予約制	
泌尿器科	午前	第2週:笹村 第4週:廣部	笹村	廣部	笹村	廣部	午前診療のみ 午後は検査・手術	
婦人科	午前	内田(初・再診)	大隅(傷の小さな手術外来) 担当医(再診)	齋藤(裕)	女性医師外来 10:00~14:00 (受付時間13:00まで)	担当医	木曜日は女性医師による診察	
皮膚科	午前	廣崎(予約制)	—	廣崎	廣崎	廣崎(予約制)	—	
形成外科	午後(専門)	高橋(仁美)(予約制) 褥瘡専門外来	廣崎(アレルギー・腫瘍)	—	高橋(仁美) 廣崎(予約制)	高橋(仁美)(予約制)	午後は紹介予約専門外来 [火曜日午後は第3週を除く]	
耳鼻咽喉科	午前	香山	香山	香山	—	—	—	
眼科	午前	鈴木/前田	担当医	—	鈴木/前田	鈴木/前田	火曜日完全予約制	
精神科	午前	中村/金(シン)	中村/金(シン)	中村	中村/金(シン)	中村/金(シン)	午前診療のみ 午後は検査・手術	
精神科	午前	担当医(初診)	宇士(初診) 森川(再診)	松永(初診) 宇士(再診)	清水(初診) 松永(再診)	森川(初診) 松永(再診)	当院入院中の方のみ	

※都合により、代診・休診となる場合がございますので、事前にお電話にてご確認願います。(代表 011-611-8111)

北海道医療センターニュース

山の手だよ!!

No.11

2014年5月発行



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号



QRコード

TEL.011-611-8111

北海道医療センター

検索

